

懐かしい津軽の味

在京
県人ら 「食する会」で堪能

東京で古里の味を楽しもうと「津軽伝承料理を食する会」が十一日夜、港区西新橋のレストラン「ボワヴェール」で開かれた。弘前地区生活改善フ



古里の味を満喫した津軽伝承料理を食する会

けの汁やじゃっぱ汁など津軽の郷土料理を楽しんだ。テーブルには清野優美

子さん、佐藤芳子さん、蒔苗幸子さんから弘前市のリンゴ農家の女性八人が手作りした棒タラの煮付け、センマイの白あえ、けっこみそ、ニンシンの子あえなど十五品がずらりと並んだ。

清野代表が「愛情をたっぷり込めて作った津軽の料理と、津軽弁を味わって」とあいさつ。参加した藤崎町出身の佐藤喜代英さんは「東京に来て四十年。こういう機会があるのはうれしい。うれしさでおいしさも倍増」、青森市出身の鈴木一生さんは「め（おいしい）の一言。津軽の母さんたちのパワーに圧倒された」とにっこり。互いに酒杯を酌み交わしながら、それぞれのお困りごとで盛り上がった。

陸 奥 新 報

2007年(平成19年)2月16日

(金曜日)